



# 生徒千人超 10年で1.5倍

インターネットなどの通信教育で学ぶ通信制高校の生徒が県内で増えている。秋田魁新報社が各校に聞き取って調べたところ、6月1日現在の生徒数は計1009人。10年前の1・5倍に増え、高校生全体に占める割合も高まっている。各校は多様な教育カリキュラムを提供し、さまざまな事情を抱える生徒や興味のある分野を集中的に学びたい生徒たちの受け皿となっている。



【上掲】  
各校は多様な教育カリキュラムを提供し、さまざまな事情を抱える生徒や興味のある分野を集中的に学びたい生徒たちの受け皿となっている。  
(上:2回、下:20日に掲載)

通信制高校は、オンライン授業を視聴したり、レポートを提出したりして単位を取得し、通常3年間で高校卒業資格を取得する。コースによっては一定期間登校する「スクーリング」を行う。生徒の学習進度に合わせた授業を行い、連携する通信制高校の卒業を支援する「通信制高校サポート校」もある。高卒資格を得るには連携校に同時入学する必要がある。県や県教育庁などへの取材によると、6月現在、県内の通信制高校、通信制課程がある高校、通信制高校サポート校の生徒数は26万4974人と、高校生全体の12人に1人に

## 計6校、多様な学び提供

文部科学省の2023年度調査によると全国の通信制高校の生徒数は26万4974人と、高校生全体の12人に1人に上る。県内では14年度は672人で高校生全体のおよそ50人に1人だったのに対し、23年度では25人に1人に増えた。背景には、不登校の増加などにより学びの場の選択肢が増えたことがある。通信制高校は不登校になったり、他校を中退したりした生徒を受け入れている。さらに近年は教育環境や学習内容に引かれて入学、転入する生徒が増えているという。

### 個性生かせる環境

各校は、生徒が伸び伸びと学び、個性を發揮できる環境を整えるため、授業カリキュラムの充実を力を入れる。第一学院高校秋田キャンパス(秋田市広面)は、オンライ

インの配信授業やレポート提出、対面での指導を組み合わせて学習する。通学頻度は、心身の状態に合わせて、週0〜5日のいずれかを選ぶことができる。

登校日は一つの教室に集まって課題に取り組むが、内容は一人一人異なる。疑問点は教員や友人に相談しながら、自分のペースで学ぶ。教室に行くのが難しい生徒向けには自習スペースを開放しており、秋田大学生らが常駐して学習をサポートする。

秋田クラーク高等学院(同市大町)は個別学習中心の在宅コースに加え、週5日通学する「全日型」コースを設置している。全日型では数学や英語などの科目のほか、ITグラフィックやプログラミング、保育など専門分野に特化した実践的な授業も受けられる。県内外で活躍するイラストレーターやITコンサルタントなどから学ぶことができ

るという。

県内では今春、さくら国際高校秋田キャンパス(同市山王)、トライ式高等学院秋田キャンパス(同市千秋久保田町)が開校した。さくら国際も複数のコースを設けて専門的な学習内容を提供する。県内の映像制作会社などと連携したり、資格取得を手厚くサポートしたりしている。

教職員は生徒がスムーズに高校生活を送るためサポートする。第一学院は生徒と職員との面談を月1回行い、さまざまな相談に対応する。秋田クラークでは生徒が担任を選べる制度を導入。普段から密に関わり、悩みなどを話しやすい環境をつくっている。

### 進路選択の一つに

秋田クラークは、生徒の約3分の2が不登校を経験しているという。三浦校長は「自分を否定してきた生徒は多い。そうした子たちに『いろんな生き方があっていい、自分を肯定してあげよう』という考え方を伝えたい。他の生徒や教職員とも関わりながら、他者との違いを理解し、お互いに認め合える姿勢を身に付けてほしい」と語る。

第一学院の石橋美和子秋田キャンパス長は、県内では通信制高校に対する理解が十分に進んでいないと指摘する。「通信制高校にマイナスなイメージを持っている人がまだまだ多いように感じる。保護者や中学校の教員には生徒が個性を生かせる進路選択の一つとして考えてもらいたい。県内各校が集まる説明会を、自治体などと協力して開催できればいい」と話した。(清水美沙)



プロのデザイナーから画像加工の方法などを学ぶITグラフィックコースの生徒たち。6月上旬、秋田市大町の秋田クラーク高等学院



自習室で学習する生徒。6月上旬、秋田市広面の第一学院高校秋田キャンパス